

10分でわかる

社会・経済のうごき@しんぶん.yomu

知っておきたい日本経済トピックスを新聞から抜粋しました。(公社)長井法人会(TEL88-3960 FAX88-3823)

**税の絵はがきコンクール入選作品 33 点を長井法人会の HP にアップしました。
小学校 6 年生皆さんの力作を是非ご覧ください。**

2014 年度 税収、1 兆円超の増収

財務省の発表によると、今年 4～10 月累計での一般会計税収は、前年同期比 10.4% 増の 1 兆 1 千 3 百 5 8 億円となった。内訳で見ると、所得税収が 7.8% 増、法人税収が 19.6% 増、消費税収が 25.2% 増となっている。景気改善や雇用改善が税収を押し上げており、2014 年度一般会計税収は当初見積もりより、1 兆円超の上振れとなる見通しで、この上振れ分や前年度予算の使い残しを合わせた 3 兆円規模の景気下支えの 2014 年度補正予算を編成するとしている。

多重債務者、ピーク時の 1/10 に減少

金融庁のまとめによると、消費者金融の借入れが 5 件以上ある多重債務者は 9 月末時点で 16 万人となり、最多だった 2007 年 2 月時点(177 万人)の 10 分の 1 以下になったことが分かった。2010 年の改正貸金業法の完全施行により、消費者金融会社の貸出総額を年収の 3 分の 1 までに制限することが設けられたことで多重債務者が減った。1 人当たりの借入残高は 52 万 4 千円で過去最低。

消費支出 7 か月連続で減少

総務省の 10 月の家計調査によると、1 世帯当りの消費支出は 2 万 8 千 5 百 7 9 円で、前年同月比 4.0% 減となった。4 月の消費税率引き上げ後、7 か月連続で前年同月比マイナス。消費者の節約志向を背景に消費低迷が続いている。とくに、消費支出の内訳で、高額品の落ち込みが大きく、冷蔵庫やエアコンが振るわなかった「家具・家事用品」は 14.4% 減、リフォーム需要の低迷で「住居」は 12.5% 減と、それぞれ 2 ケタの減少となっている。

振り込め詐欺、過去最悪の 293 億円

警察庁のまとめによると、今年 1～10 月に全国の警察が把握した振り込め詐欺被害額は約 293 億 9 千万円になり、これまで年間過去最悪を記録した 2004 年の約 283 億円を既に上回った。振り込め詐欺手口では身内の危機を演出する「おれおれ詐欺」が被害額の約半分にあたる約 141 億円で最多だった。また、架空請求詐欺は昨年同期比 2.8 倍と急増し、約 129 億円となっていた。

日本の温室ガス排出、過去最大に

環境省の発表によると、2013 年度の日本の温室効果ガス排出量は、二酸化炭素(CO2)換算で 13 億 9 千 5 百 0 万トンとなり、これまで最大だった 2007 年度を 100 万トン上回った。福島原発事故の影響で原発が停止し、火力発電による化石燃料消費が増加したのが主因だと指摘している。また、同省は原発事故前の電源構成が続いていた場合は、温室ガス排出量は 1 億 4 千 7 百 0 万トン程度低くなっていたとの試算も同時に示した。

学生バイトの約 7 割が不当な扱い

市民団体「ブラック企業対策プロジェクト」が実施した大学生アルバイト実態調査によると、約 7 割が「希望しないシフトに入れられた」を最多に、不当な扱いを受けたことがある実態が明らかになった。不当な扱いでは、望まないシフト入れられたのに続いて、「労働条件を書面で渡されなかった」「実際の労働条件が募集と違っていた」が挙げられた。また、残業代の不払い、店長などから暴力や嫌がらせを受けたとする回答もあった。

子どもがいる専業主婦 86%、「働きたい」

人材サービス会社のリクルートジョブスが子供のいる 20 から 49 歳の専業主婦を対象にした調査によると、「過去 1 年間仕事を探した」(37.9%)、「仕事探しはしなかったが働きたい」(48.3%)と考えており、働く意欲を持っている専業主婦は 86.2% に上ることが分かった。他方、働きたい人に仕事への不安の有無を聞いたところ、仕事を辞めてから長く仕事から離れていることや育児との両立を理由に、「大変不安」(44.3%)を最多に、「不安」や「やや不安」が続き、93.7% が不安を感じていた。

小中の 6 割、「東京五輪、見たい」

文部科学省の小学 5 年生・中学 2 年生を対象にした全国体力テストでの調査で 2020 年の東京五輪・パラリンピックについて尋ねたところ、約 6 割が「試合を見に行みたい」と答えた。とくに、男子よりも女子の方が「見に行みたい」割合が多かった。「選手として出場してみたい」は小 5 男子が 36.4% で最多だった。また、「開催の手伝いやボランティアをしたい」というのは、小 5 女子の 26.2% が最多で、女子で多くなっていた。